

1 広汎性発達障害

ものとのとらえ方や考え方に独特な偏りやこだわりを持ち、そのために他人との接し方(コミュニケーションのとり方等)や社会性の面で苦手さを持ったり、不適応状態におちいったりし孤立してしまう場合があります。

2 社会恐怖(社会不安障害)

他人に注目されることや悪い評価を受けることに強い恐怖を抱いたり、社会的な状況を避けたりします。不安や恐怖からパニック発作が起こることもあります。このため日常生活や社会的な活動が障害されることがあります。

3 強迫性障害(強迫神経症)

たとえば「自分のからだは汚れている」のような考えにとらわれてしまい一日中、何十回となく手を洗ったり、繰り返してしまったり、「あやまって人にひどいことをしたり傷つけてしまわないか」と強迫観念にとらわれたりすることがあります。

4 パニック障害

突然の激しい動悸、胸苦しき、息苦しき、めまいなどを伴う強い不安と、死ぬかと思うほどの恐怖に襲われるなどを体験する「パニック発作」があり、その後、「再度似たような発作が起きるのではないか」という強い不安を抱いてしまいます。そのためにひとりでの外出ができないほど社会生活が困難になることがあります。

5 うつ病

ゆううつな気分とともに、気分の落ち込みや思考力、集中力の低下などが生じます。自分自身に対する感情も、とても否定的なものになってしまいます。また、頭が動かず、感じたり考えたりすることができにくい状態になります。何かを決断することも難しい為、外出することが困難になります。うつ状態が続くと死にたいという気持ちになることもあります。

6 統合失調症

たとえば、「まわりの人が自分の悪口を言っている」「テレビやラジオで自分の噂をしていた」といった現実的ではない考えにとらわれてしまったり、考えが次から次へとまとまらなくなってしまう。一方で、根気が続かない、意欲がわかない、生き生きとした感情がわいてこないなどの症状が同時に出現することもあります。こうしたことから閉じこもりがちになり、いつも疲れやすく、家で無気力でごろごろしているといった状態が続くこともあります。

7 知的障害

年齢に相応した知的な発達に遅れがある状態で、コミュニケーションや身辺処理、自己決定などに他人の手助けが必要な場合が生じます。障害の状況によっては、教育や訓練に加えて、社会参加に向けた適切な支援が必要となります。